



ボランティアに参加する君へ！

ボランティア（volunteer）という言葉の語源は古典ラテン語の「volo」に由来し、will と語源を同じにする言葉です。日本語では「喜んで～する」という意味があり、人々が自発的に何かをやりたい気持ちを表す言葉といえるでしょう。

ボランティア活動の性質は、「自主性・主体性」「社会性・連帯性」「無償性・無給性」「開拓性・創造性」の4つの原則をあげて説明されますが、もともとの意味からは“自発性”が原点であることがわかります。誰かに強制されたり、無理にやらなければならない活動ではないのです。

またボランティア活動を「奉仕活動」と同義語に使う場面が見られますが、「奉仕」という言葉には、下のものが上のものに仕えるといった縦の関係性や、あるものがないものに施すようなイメージがあり、対等につながりパートナーシップを築こうというボランティア活動の趣旨とは異なります。

するのかもしれないか、どのようなテーマを選ぶのか、どこでやるのか…。活動の選択を本人の自由な意志に任されている、まさに「私」発の活動といえます。

（「日本ボランティアコーディネーター協会」のHPより）

びっくりしました。詫中生のボランティアへの参加意欲に。予想を上回る参加申し込みがあったのです。

夏休みには毎年、三豊市内や詫間町内でのボランティア活動の募集があります。今年も、すでに永康病院の「ふれあい看護体験ボランティア」、詫間町の「詫間ゆめ街道クリーンアップ作戦」、三豊市の「保育、看護のボランティア体験」の募集がありましたが、なんと、のべ「103名」の人がボランティアに参加してくれるのです。申し込んだけれど抽選に漏れた人や部活の試合等が重なって辞退した人の数も含めると、「ボランティアに行こう」と考えていた人は「113名」になります。実に、詫中生の3人に1人が、「自主的」に誰かの役に立ちたいと名乗りを上げてくれたことになります。



さて、参加する皆さん、「何のためにボランティアに参加しようと思ったのか」ということを再度考えてみてください。「自分の行動が誰かのためになるから」「喜んでくれる人の笑顔が見たいから」「街をきれいにしたいから」など、様々な思いが浮かんでくることでしょう。3年前の東日本大震災でも、ボランティアの人たちの活動が復興の大きな力になりました。しかしその反面、観光気分で参加したり、自己満足のためだけに参加したりする人たちがやってきて、支援の邪魔になったり貴重な水や食料を飲んだり食べたりしただけで帰って行った、という実態もあったのです。こうなると、何のためのボランティア？といいたくなりますね。

大切なのは、「独りよがりや自己満足のボランティア」ではなく、「世のため人のためのボランティア」であることです。そうすることで、自分も満足のいくボランティアになることでしょう。

ボランティアに参加する君へ！精一杯活動することを期待しています。

夏休みも、自転車マナーを厳守すること！



楽しく有意義な夏休みにするためには、気を付けなければならないことがあります。特に自転車マナーについては、要注意です。1学期間に自転車マナーに関する地域からの苦情や問い合わせは、10件を超えました。つい先日も、登校中の中学生と自転車が接触して、自転車が壊れたという通報がありました。

自転車は法令上「軽車両」とされ、乗車している人には法的な責任があります。交通法規に違反した場合は、罰則が科せられる場合があるのです。事故などになった場合は、相手の人や自分だけでなく、家族にまで迷惑をかけてしまいます。

なによりも自分の命を守るためにも、自転車マナーを厳守する夏休みにしてください。